

文芸研ニュース

2025年8月1日

—NO. 170—

発行 文芸教育研究協議会
編集 文芸研事務局



かなり忙しい時期だったが、千葉大会に向けて実りある学び(5月神戸)

巻頭	辻委員長より	1
千葉大会現地より		3
元事務局長としての歩み		5
事務局通信		7
事務局員の妄想日記		8

夏の大会で大いに学び合いましょう

委員長 辻恵子

◆夏はパワーを蓄える時期

第59回文芸研千葉大会が間もなく始まります。開催日の8月2、3日は、例年のことではありませんが多くの他民間教育団体の夏季集会と重なっています。

「日本作文の会」、「全国生活指導研究協議会」、「歴史教育者協議会」、「一般社会法人『人間と性』教育研究協議会(性教協)」、「日本生活教育連盟」、「学校体育研究同志会」、「学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会」、「新英語教育研究会」、「美術教育を進める会」……。ついつい「参加者の奪い合いになってしまふ」、と考えてしまいますね。これは、近年八月上旬まで勤務がある上、八月下旬には新学期が始まるためです。でもちよつと見方を変えればいろんな民間団体が厳しい状況にもめげずに学びの場を維持し、多くの教師に向けてその扉を開いているということなのです。「民間団体の冬の時代」と言われる今であっても、たくさんさんの団体が「夏こそ学びを広める絶好の機会」と精一杯取り組んでいるのですからパイの奪い合いのように考えず、共に頑張っていきたいものです。さて、わたし達文芸研大会に来てくれる一般参加者

のことを思い浮かべてください。ふだんはどうしても目の前のことに追われがちな先生たちが、〈学びたいことを学びに行くんだ、そこでパワーを蓄えたい!〉、そう期待してこの大会に来てくれるのです。遊びに行くより身銭を切って学ぼうとする誠実な先生たちです。とにかく行ってみよう!と決意してきたとはいえず未知の世界をのぞくような先生たちにとって、例えば分科会で一回でも発言出来たらはっとすることでしょうね。大会の二日間が有意義な学びの時間になり、「文芸研の授業っていいな」と気づいてもらえるように、そして「ああ、来てよかった!」と思ってもらえるように全力を尽くしましょう。

もちろんそれは、わたし自身の力になります。現場の困難を乗り越えるためにも、こういう学びの場とフラットで温かい交流を大切にしたいものです。

◆参加申し込みは早めに!交流会にもぜひ参加を!

大会を三週間後に控えた時期、まだ参加申し込みが少なくて現地実行委員はみな、気をもみました。サークル員でもまだ申し込みをしていない人がいるから、これから増える・・・と思えば気が楽かもしれません。が、そこはやつぱり「このままではどうなってしまうのだろう」という焦りと不安が入り混じった思いでいっぱいになりました。サークル員はぜひ早く申し込み込んでほしい、とこれは来年度のために強く言いたいです。

また、交流会参加申し込みが少なくて驚きました。交流会担当の佐藤さん、上西さんがとても気をもんで、これでは困ると檄を飛ばした(上西さんの文書)のはご承知の通りです。ただ飲んだり騒いだりの場ではなく、活動の一環としてとらえてほしいのです。上からの研修と違って各自の自由参加ではありますが、だからこそ主体的に関わっていただきたいのです。特に提案者、司会者はがんばってきたいを語っていただきたいですし、それに対してみんなで大いに称えたいと思うのです。また、全国各地にちらばっているけれど、一つの運動体なのですから、各サークルの近況についても交流したいと思います。全国各地の状況の違いが見えるかもしれませんし、明日へのヒントがあるかもしれません。何より、集い、語り合うことでまた共にがんばろうという元気が出てくるのではないのでしょうか。来年度は、交流会についてもできる限り(大会参加と同時に)申し込みでくださるよう願っています。

◆戦後八十年、子ども達と平和について語る

今大会にあわせて出版される『文芸教育』136号では、「今こそ平和教育を①―戦後80年の節目に―」というタイトルで平和教育の特集を組みました。千葉大会を、何らかの形で平和を打ち出した会にできればよかったのですが、力及ばずそうできなかったのが残念です。

でも、みなさんには二学期のはじめ、ぜひ子ども達と平和に関わる話をしてほしいと思います。子ども達に夏休み中に、何か平和に関わるテレビ番組を見た、見学した、本を読んだ…そんな体験を話してもらいます。もしも子どもの話がなかったら、教師が何か話してあげてもいいのです。簡単にできることとしては「夏の間にこんな本に出会ったので紹介するね」と、絵本の読み聞かせをする、これがいいですよ。（二期期になってすんなり学習に取り掛かれない子には読み聞かせが有効です！）とにかく何かしら子どもに平和のメッセージを届ける、そんな二学期の始まりにしてほしいと思うのです。

夏は戦争と平和を子どもに語る時期です。でもその夏が終わったところからでも始めることができますからね。



気が付けば・・・

千葉文芸研松戸サークル 沼澤賢

文芸研と出会って約8年ほどが過ぎました。入ったきっかけは、「とにかく国語の授業の仕方がよくわからない!」「毎日ある教科だからこそ力を入れたい。」などと…子どもをよく育てたいという思いよりかは、目の前の授業をなんとかしたい気持ちで精一杯でした。

そのような中で、出会ったのが文芸研でした。とくに、周りにサークル員がいるわけではなく、インターネットで「国語 授業」で調べているうちに、「文芸研教育とは、自己と自己をとりまく世界を、よりよく変革する主体に子どもを育てる、革新的な営みです。そのために、国語科では、ことばによる人間の真実や…」という言葉が目にとまりました。「なんか、これはすごい!」そして、ここで学んでみたいという自分の気持ち湧きました。

はじめの1年間は、自宅の千葉から東京のサークルに通い、学習を重ねました。サークルで学んだことを授業で実践してみると、子ども達の反応もよく、自分の授業にも少し自信がもてるようになりました。そうして、だんだんと自分の学びたいという心に火がつき、気がつけば「青年学校」という、文芸研の基礎基本を学べる学習会にも参加していました。

これまでは、自分の採用された県の仲間しか知り合
いがい wasn't でした。しかし、青年学校に通ってみる
と、全国各地から先生たちが学びに来ていて、驚いた
こと、そして、ワクワクしたことを今でも覚えていま
す。私自身、文芸研を立ち上げた西郷先生に出会うこ
とはありませんでしたが、その教えを受け継いだ先
輩方の話は、何時間でも聞くことのできる、そんな魅
力と学びとワクワクがそこにはありました。

こうして、文芸研との出会いから今までの道のりを
振り返った時、たくさんの気付きがありました。

一つは、子どもの見方です。サークルの例会などに
参加し続けると、「一人一人の子どもの思い、本音を
大切にしたい」「子どもから学ぶこと」などと、子ど
もを大切にすることの具体を国語の授業を通して教
えていただけました。そしてまた、目の前の子どもを
大切にするという当たり前のことから出発すること
の大切に気付かされました。当たり前といえば、それ
までですが、自分にとって、「子ども大切にすること
ということが、肌感覚で感じることができたのは、大き
な自信となりました。

もう一つは、授業への自信です。文芸研では、確か
な教材分析・解釈を大切にしています。

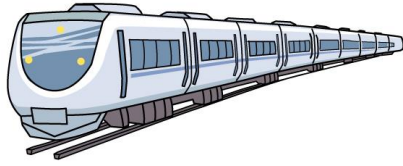
おかげで自分自身も教材分析・解釈の大切さが身に
染みてわかるようになってきました。そして、その授
業の自信を支えるのは、サークルの定例会はもちろん
ですが、毎年夏に行われる全国大会での発表が大きな

機会となりました。自分自身もコロナ禍では、ありま
したが、数年前に提案をさせていただきました。発表
までの道のりは、これまで経験したことのないことの
連続でした。冬の実践研では、教材分析・解釈をみん
なで検討します。教材の分析や解釈について、全国の
先生からご指導をいただきます。それ経て3学期に授
業に臨みます。そして、授業した後は、授業記録の作
成です。文芸研では、子どもと教師のやりとりがわか
るように記録をつくっていきます。ですから、授業を
録音して、それを聞いて、文字に起こすという作業が
ありました。この作業はもちろん大変ですが、その分
自分の授業を振り返ることができるということが、一
番の勉強になります。「もつと子どもの声を聞けばよ
かった」「この時に、教師（自分）の発言はないほう
がよかった」などと反省するばかりです。同時に、ど
の子の発言も生かしてみたい。意味づけていきた
い・・・もつと子どもを大切にしたいという思
いも芽生えてきました。もちろん、授業のねらいやめ
あてを達成することは大切ですが、自分の中では「授
業で子どもを大切にすることとは、どういうことなの
かを気が付く事ができた貴重な財産となりました。

このような自分の対話やサークル内での検討を経
て、春の実践研でさらに全国の先生方にたくさんの指
導をいただき、全国大会への提案となりました。

そして、何よりも大事なことは、「仲間」がいたこ
とです。授業で困ったことや分からないことがあった

時など、いつでも親身になつて話を聞いてくださったり、的確なアドバイスをいただいたり・・・時には、おいしい食事も共にしたりなど。勤務先の仲間ともまた違う「仲間」ができていたことに気付きました。もし、文芸研に興味や学びたいという方がいたら、迷わず一步を踏み出してほしいと思います。そこには、たくさんの気付きや出会いが待っています。私自身の教育観や生き方がパツと変わったように、自己を変えることができるチャンスです。少し時間はかかるかもしれませんが、ここでの学びは一生モノです。ぜひ、一緒に学びましょう。



元事務局長としての歩み

なんで文芸研？やっぱり文芸研

大阪文芸研枚方サークル 山中尊生

佐々木さんから事務局長のバトンを受け継ぎ、10年近く事務局長として文芸研の運動に関わってきました。今回、「事務局長としての足跡を文芸研ニュースに書いてください。」と松山さんから聞いて、今一度自分のたどってきた道をふり返ってみました。

これまで、西郷会長、上西委員長、辻委員長の元で事務局長としての仕事を全うしてきました。事務局長の仕事は多岐にわたります。文芸研全体の会計、実践研の段取り（宿舎の手配、交流会の手配、案内の送付、参加者集約後の旅行社とのやりとりなど）思い出すときりがありません（・・・）来年の大会の分科会の候補者の決定・調整、サークル代表者会議の連絡・調整・資料作成をはじめ日々色々な方と連絡をしながら走り回ってきました。今でも思い出すのは、実践研の案内を以前は封筒で出していたので、3月末から4月の忙しい時期に、80通以上の封筒に往復ハガキと資料を入れる作業を家で夜中までかかって作業していたことを思い出します。ポストに入れるのも80通ならけっこう大変です（笑）。全国サークルの方への連絡も

私からの連絡は、事務的なお話やお願いが多く、心苦しいことも多々あっただろうなあと思います。

妻からも、「仕事も大変なのに、そんなに作業して大丈夫なの？」と心配されたことも一度や二度ではありません。事務局長として、学びより作業量の多さに「なんで文芸研、ずっとやり続けているのだろう。」と自問自答することもありました。大変だったが最初に出てきた感想でした。

今でこそ、さまざまな仕事を各部で引き取ってもらい、事務局員の人数を増やし分担することができてきましたが、決して容易い道ではなかったなとも思います。次の事務局長は、山口東の酒井さんです。酒井さんは、素晴らしい人柄です。また新たな事務局長として文芸研を支えて下さっています。応援したいと共に、私も頑張りたいと感じています。

「その役にふさわしい力を持っているから指名するのではない、役がその人を鍛え、役にふさわしい人間に育てるのだ」

事務局長を交代したときに、上西さんからねぎらいの言葉をいただきました。その中で西郷会長の言葉を紹介していただいたのですが、胸に響きます。

大変だった。大変だったけど、「大変だったなあ。」と感じた倍以上素晴らしいこともあることも溢れてきました。たくさんの方から温かい言葉をかけて頂い

たり、縁を頂いたり、希有な経験をさせていただきました。家族もずっと応援してくれたり、学ぶ仲間ともつながったりと素晴らしい10年間だったとも振り返ることができました。

改めて、支えて下さったたくさんの方に「ありがとうございます。」と伝えたいです。

現在は、文芸研の副委員長として、また組織部の一員として運動に携わっています。2024年の徳島大会で実践報告の時間を頂きました。その中で、自分の実践とは何か。自分が文芸研でしたいことは何かを問い直す機会になりました。その中で語った「現役200人の仲間をつくりたい。」は色々考えての思いです。西郷会長が亡き今、文芸研の魅力を伝えることがとても大切です。その先を考えていくと、さらに文芸研の仲間になって下さった後のサークル活動がより魅力的になっていくことが必要だなと感じました。西郷文芸学、教育的認識論、全国の仲間とのつながりは、文芸研の大きな魅力です。「難しいからこそ面白い。」「人間について考えるのはどこまでも限らない。」「大人でワクワクする学びってすごい。」全国の国語に困っている先生方、今の授業がしつくりきてない先生方、もつと本当に力をつけたい。学びたいという先生がと繋がれたらと思います。

事務局長の仕事は、大変でした。大変だったからこそ、大きく変わり成長することができました。たくさん感謝と共に、未来へもう一歩歩みを進めれたらと

思います。

なんで文芸研を続けてるだろうという問いは、やっぱり文芸研おもしろいなあとという答えと共に、もっとおもしろい文芸研に大きく飛躍させていけたらいいなと思います。

2025年7月12日現在の山中尊生

事務局通信

今年も暑い夏がやってきました！第59回千葉大会は、久々の首都圏での開催です。

秋山大会実行委員長、沼澤大会事務局長をはじめとした、現地実行委員の皆様が計画を立て、大会成功に向けて一步一步積み重ねてきてくださった大会がいよいよ始まりません。また、厳しい状況の中でも動員目標達成に向け、各サークルでの粘り強い取り組みもありがとうございました！

荻上チキさんの記念講演や、美炎（mihō）さんの馬頭琴演奏なども、大会を盛り上げてくれます。淘江さんの公開授業や秋山さんの実践報告もあり、見どころ、学びどころ満載の初日です。そして、二日目は



分科会です。一年間じっくり練り上げてきた分科会の提案を、参加者の皆さんと一緒にさらに良いものにしていけたらいいなと思います。千葉大会をみなさんの手で成功させていきましょう！よろしくお願いいたします。

☆文芸教育、授業シリーズ販売をよろしくお願いいたします。まずは「一つの花」完売を文芸研全体の目標として掲げております。「一つの花」は二期教材です。また、ぜひぜひ宣伝、紹介などよろしく願います。また、サークルでの読み合わせや、各地の学習会での紹介などで、文芸教育や授業シリーズのよさをたくさんの方に伝えていきましょう。各サークルのご協力をどうぞよろしくお願いします。

☆サークル会費納入のお願いです。まだお済みでないサークルは全国大会での納入、または振込での納入をお願いします。ご協力よろしくお願いします。

今後の予定

- 8月4日（月） 青年学校
- 8月11日（月） 分科会内容 総括提出
- 8月23日（土） サークル代表者会議
- 12月26日（金）、27日（土） 冬の実践研

【事務局員の妄想日記】ある日の学級通信より

『生き残りエビカツサンド』

パン好きな担任。京都市内にまるき製パン所というパン屋があります。この春に知って、何度か通っています。

先日、ランチの買い出しに一人まるき製パン所へ。車から京都水族館、京都タワーを見ながら、そのすぐ北へ。

午後一時。パン屋につきました。家族のLINEには、注文が来ています。このパン屋は、コッペパン自体がともおいしいパン屋です。「エビカツ×3」「ハムカツ×3」「チョコクリーム×3」「ポテサラ×1」私以外の家族の注文にくわえ、私の食べたものを言えば、後は家族のもとに帰るだけ。



店前には、四人のお客さんがならんでいました。店頭にならんでいるパンをかくにんしました。私は、目を丸くしました。なんと、ほとんどない！もしかして、売り切れ間近なのか。

「ここにあるだけなんですう…。」

前のお客に話す店員さんの明るい声が聞こえて来ました。少しずつ残りのパンが減っていきます。目の前の女性の次が、ようやく自分の番。どれほどのパンが残っているのか、顔を右に出してまたかくにんしてみました。これはまずい。もう二つしか残っていないのです。エビカツサンドが二つ。この時点でもう夢は消えました。家族に託された願いを、父としてかなえてやることはできなくなりました。

一番つらいのが、この目の前のマダムが残り二つとなったエビカツサンドを二つとも買った場合です。その場合、店員さんから「すみません。今売り切れました。またお待ちしています。」のあたたかい言葉を、体と心全てに受けて車にのりこむことになります。何をしに来たのか。でも、マダムが二つ買ったからといって、悪いわけではない。マダムだってならんで自分の番が来たわけだ。残り二つを買い取れりがあるのです。マダムが買い物をすませました。マダムは私の右がわへと歩き出しました。店頭には、なんとエビカツが一つ残っていました！おお。マダム。あなたはもしかして、二つ買いたかったのではないのか。まさかこのパン屋まで来て、エビカツ一つでまん足できるわけは

ないでしょう。ほかにパンがあればいっぱい買って、あのコッペパンのやわらかさで心みだす休日を送りたかったはず。それを、今来た男に、エビカツ一つ残してさって行くなんて。おお。ありがとう。マダム。

「もう最後の一つです。すみません。」

「では、エビカツ一つで。」

あのコッペパンを楽しみにしていた家族は、「コッペパンの口」で待っていました。ほかのパン屋で色々なパンを仕方なく買って帰った理由を話しました。エビカツを五人で分けて食べました。一つを五人で分け合いました。

一つ残してくれたマダム、あなたにも幸あれ！

【やっぱり楽しい作文指導】

はじめてのオムライス

Mさん（三年）

わたしは、日曜日にはじめてオムライスを作りました。

わたしは、かまぼこをきるところがわからなかったからおかあさんにききました。

そしてさいごのひっくりかえすときに、しっぱいしてしまいました。けど、おかあさんが、てつだってくれてきれいにできたのが、4つありました。しっぱいしたのが、2つでした。

さいごに、フルーツを作りました。

家族で食べようとしたら、おかあさんが、「きょうは、いちりゅうシェフが作ってくれました。」といました。みんなは、わたしが作ったごはんをぜんぶ食べてくれました。

うれしかったです。

さいごに、みんなが、「おいしかった。」っていつくれてうれしかったです。

もういっかいちがうりょうりをみんなに食べてほしいです。

お母さんのサポートもあって、いいオムライスができたね。オムライスはおいしい分、作るのがむずかしいんだよ。よく作れたね！どんなシェフもしっぱいしながら、それをうけとめることでレベルアップしていきます。料理を作る人の気持ちが分かってきたでしょ。全部食べてくれるってうれしいね！それだけおいしかったんだな。さすが、一りゅうシェフ！